

Daiwa House PRESENTS
 熊川哲也 K-BALLET TOKYO
 Winter 2025 『シンデレラ』

■ ジュリアン・マッケイ コメント



Q. K-BALLET TOKYO の印象は？

A. 芸術監督の熊川さんは、私にとって憧れで尊敬している偉大なるダンサーです。どの作品も質が高く、これまでに『蝶々夫人』『ジゼル』『くるみ割り人形』と出演してきましたが、舞台装置、ライティング、衣裳と細かいディテールにこだわった世界トップクラスのものだと感じました。熊川さんが音楽についてよく理解されているので、音楽のテンポも完璧でダンサーとしても深く演じる、踊ることができるのです。

そして、ダンサーのみなさんはとても情熱的。みなさん、自身が何をやるべきかを理解して集中してレッスンに取り組んでいます。教える側の方々も、以前その役を踊ったことがある方々が自らレガシーを継承していてダンサーへのケアが行き届いています。フロアも常に完璧（笑）。カンパニー全体の、真剣な気持ちが伝わってきて一緒にレッスンをしてモチベーションが上がります。芸術は、ただ芸術を作るだけでは足りないと思うのです。そこにいるすべての人が情熱をもって取り組んでこそ素晴らしいものが生まれると感じています。

Q. 『シンデレラ』では、どういった王子役を観られますか？

A. 『シンデレラ』は、『くるみ割り人形』に比べると現実的な作品。私が踊る王子は、結婚を控え、運命に導かれるように予期せぬことが次々と起こるけれど、最後には幸せになります。予期せぬことをきっかけに幸せになれるという運命の導きのようなメッセージを王子という役を通して、伝えたいと考えています。“思いもよらなかった偶然がもたらす幸運”=セレンディピティというのでしょうか？ 勇気と、モチベーションを上げられる王子役でありたいですね。人生には、時には自分を解放する魔法が必要！バレエを通して私がみなさんに魔法をかけ、夢のような世界に誘います。

【プロフィール】

米国モンタナ州生まれ。当時外国人最年少の11歳で世界最高峰のボリショイ・バレエ・アカデミーに入学。米国人として初めてフル・ディプロマを取得し卒業。在学中、ローザヌ国際バレエコンクールやユース・アメリカ・グランプリ等、5つの国際コンクールで立て続けに入賞。2015年ローザヌでプロ研修賞を受賞のち、英国ロイヤル・バレエ団に研修生として入団。同年ミハイロフスキー劇場バレエに入団。世界の主要劇場でゲスト出演するほか、22年9月からはバイエルン国立バレエのプリンシパルを勤めている。24年9月には、奈良県の法隆寺を舞台に開催された『OTOBUTAI 2024 HORYUJI』の出演でも注目を集めた。容姿端麗にして傑出した実力を備えたこの若きスターは今や世界中の注目を集め、カルティエのアンバサダーを務めるほか、「VOGUE」「Numéro」誌が特集を組むなど、バレエ界にとどまらずマルチに活躍の幅を広げている。